



- 自分で考え進んで実践する人間
- 公共心に富み情操豊かな人間
- 勤労を尊び責任を重んじる人間
- 健康でたくましい人間

『地域に支えられ、地域を支える四中生に…』

校長 関 勝 志

6日間行った「落ち葉掃き」には、延べ588名もの子どもたちが参加してくれました。6日間すべて参加した人もいました。朝日を浴びて、笑顔で落ち葉を集める姿は、とても輝いていました。落ち葉は、学校だけでなく、家の周りや公園、玉川上水沿いの道にも、まだまだたくさんあります。いつも地域の方々が自主的に清掃をされています。11月のある日のことですが、地域の方々が清掃しているところを通りかかった四中の女子生徒が「いつもきれいにさせていただいてありがとうございます」と感謝の気持ちを言葉で伝えたそうです。このような声かけができる人は、大人でもそう多くはいません。とても純粋で優しい心の持ち主です。寒い冬に心が温まる思いがしました。

12月2日（土）に、四小地区の青少対まつりが開催され、四中生も参加しました。競技だけでなく、司会を担当したり、演劇部の人たちはピカチュウやマリオ、ガチャピンなどに仮装してみんなを楽しませたりして、運営に貢献していました。「よさこい」を披露してくれた人たちもいました。進行係として全体を動かしていたのも四中卒の大学生でした。四中生が地域の力になっている姿を見て、誇らしく思いました。



11月に開催された十小地区の青少対まつりでも、スーパーボールすくいのお手伝いなどで、四中生が運営に協力していました。12月8日（土）には十五小地区の青少対まつりが予定されていますが、そこでも四中生の活躍がありそうです。

地域の行事は他にもありました。7月の陸上自衛隊小平駐屯地の納涼祭では吹奏楽部が演奏しました。10月の小平神明宮の例大祭・学園西町の秋祭りでは、わたあめとホットドッグの模擬店を四中生が手伝っていました。来年は四中生が子ども神輿を担いでくれることを期待しています。また、数年前までは、津田団地の盆踊りや一橋学園南口商店街の夏祭りなども賑やかに行われていましたが、コロナの影響や運営する方々の高齢化により縮小傾向にあります。ちょっと寂しい気がします。

そもそもお祭りの目的は何でしょう。それは、自然の神様に「五穀豊穰と健康や安全」を祈ることですが、子どもたちからすると、そんなことよりも、お祭りは楽しむイメージが強いと思います。でも、その楽しむということにも大きな意味があります。それは、「地域の繋がりを強くする」ということです。

自治会や町内会、青少対、PTA、同窓会など、地域や共通の目的によって結びついた人たちの集まりをコミュニティと言いますが、教育や文化、福祉、環境、防災、防犯などにおいて、とても重要な役割を担っています。3年生がSDGs学習で取り組んだ「理想の町づくり」にも、福祉や環境の視点がしっかり取り上げられていました。また、2年生が体験学習の日に取り組んだ「避難所運営講座」も地域の防災にとっても大きな意味をもっています。子どもたちには、大人になっても、行事や防災など、地域の活動に積極的に参加して地域コミュニティを支えてほしいと願っています。

本校は、令和6年度より、コミュニティ・スクール（地域運営学校）として、学校運営に地域の声を取り入れながら、地域と一体となった魅力ある学校づくりを推進していきたいと考えています。以前から、定期考査前の放課後学習教室や学校図書館ボランティア、園芸ボランティアとして、地域や保護者の方々に協力していただいていたのですが、最近では、技術科や家庭科、美術科の授業において、作業が安全かつ集中して進められるよう、授業中の学習支援でもご協力いただいています。とてもありがたいことです。

地域に開かれた学校から地域と共にある学校へと進化してきているように感じます。生徒や先生にとって大切な「心のふるさと」であるとともに、保護者や地域も含めてみんなが誇りのもてる「おらが学校」をつくっていききたいと思います。

これからさらに、小平四中が地域から愛され魅力ある学校であり続けるために、また、子どもたちが卒業してもいつまでも母校である小平四中の良き支援者であることを願い、保護者や地域の方々のご意見はもちろんのこと、子どもたちの意見も学校運営に反映させていきたいと考えています。

■大切な人と、大切な時間を■

副校長 池上 大輔

私が小学生の時の家族の時間は、だいたいテレビのチャンネルの奪い合いでした。アニメが見たい私、プロ野球中継を見たい父、音楽番組を見たい兄、ケンカになるならニュースにしろさいという母。

同じものをみんなで見るしかなかった当時の我が家にとっては、「自分用があったらなー」なんてことは、何度も思いました。今の中学生からすると驚きますかね。

現在はケータイやタブレットも含めると、画面が複数ある環境が多くのご家庭にあると思います。私もこの便利な環境で、家に帰ると何となくケータイを開いて過ごしている時間があります。気付くと家族もそれぞれ自分のタブレットなどを見て時間を過ごしているときがあります。

そんな時、小平第十四小学校の学校便りを拝見しました。親として、家族との時間を改めて考えるきっかけとなりましたので一部抜粋させていただきます。

【一生涯で、父親が自分の子どもと過ごせるのはたった約3年4か月（約29,200時間）、母親は約7年6か月（約65,700時間）という説があります。スマホ依存の実態調査（スマホ所有の社会人の統計）によると、1日のスマホの使用時間は平均約5時間で、子供が成人するまでの18年間で、スマホを見ているのは約3年9か月（約32,850時間）になってしまうのです。】

私は今、家族と過ごす父親として、子どもと関わる時間には限りがあることを改めて考えさせられました。親子が一緒に過ごす時間にも限りがあります。

子どもの時、自分の希望が通らず、不便を感じながらも一緒に同じものを見て過ごしていました。それでも結局家族の団らんが生まれ、家族で会話をしていたのを覚えています。

家族で過ごすとき、手元の画面に目が行き、大事な目の前の人との時間を失っていませんか。人と一緒にいるようで、一人の世界になってはいませんか。これは、子どもにも大人にも言えることです。

まもなく冬休みに入ります。年末年始、家族や親せきとゆっくり過ごす時間ももてると思います。家族と一緒に過ごす中で、物事に共感したり、思いを伝え合ったりすることは貴重な時間です。普段忙しい中で伝えられなかったことや、自分の成長した考えなど、たくさん伝えてみてはどうでしょうか。

大切な人と、大切な時間を過ごしてください。

■北校舎外壁工事終了■

夏休み開始と同時に始まった外壁工事も、先週、工事の現場責任者の方から終了のご挨拶をいただき、すべてが終わりました。北校舎を見渡すと、今まで塗りなおしにより白以外にも色がついていた外壁も、白単色となり、ヘリに緑が引かれ、大変立派な校舎となりました。屋上など屋根には防水シートが施され、雨漏り対策なども万全です。子どもたちには、授業中の騒音に耐えてもらう日もありました。工事関係の方々にも何とか授業に支障が出ないように土日に音が出るものを済ませようと努力頂きました。

来年は南校舎の工事に着工します。期間は今年と同時期の予定です。南北すべての校舎が完成した翌年、綺麗な校舎で「小平第四中学校創立60周年」を迎えます。

■生徒の活躍■

◇演劇部◇

中学校演劇発表会で高い評価をいただき、東京都中学校連合演劇発表会に出場が決まりました。

◇卓球部◇

小平市秋季市民卓球大会 中学女子団体戦 第3位 小平第四中学校 A

■1月の主な行事■

9日 始業式 安全指導	17日 職員会議
10日 学校保健委員会	18日 中央委員会
12日 移動教室前検診(1) CS学校運営協議会	19日 避難訓練
15日 全校朝礼	22日 生徒会朝礼
16日 専門委員会	25日～27日 スキー移動教室(1)
	29日 1年生振替休業日

